

## パブリック・コメント結果の概要

### 意見提出者数及び提出された意見の数

意見提出者数	57
意見数	122

### 意見提出者住所内訳

地域	人数
神戸	13
阪神南	1
阪神北	1
東播磨	5
北播磨	2
中播磨	14
西播磨	9
但馬	3
丹波	1
淡路	2
県外	1
不明	5
計	57

### 意見への対応内訳

対応	件数
反映した(一部反映含む)	35
既に盛り込み済み	53
今後の検討課題	14
対応困難	1
その他	19
計	122

## 提出された意見等の概要とそれに対する考え方

案件名:「地域づくり活動支援指針」「県行政参画・協働推進計画」

意見募集期間:平成15年12月10日～平成16年1月19日

意見等の提出件数:122件(57人)

項目等	意見等の概要	件数	県の考え方
指針・計画全般について (9件)	全体的に分かりやすく書かれており、参画と協働の重要性がよく理解できた。	7	今後は、本指針・計画に基づき、県民の参画と協働のより一層の推進を図っていきます。
	今後は指針・計画をいかに実現していくかが重要である。	2	
はじめに (1)条例がめざす参画と協働とは (4件) <本編1ページ> <概要3ページ>	本編の1ページ、13ページの「自分たちの地域を住みやすくするため、知恵や力を出し合っ、みんなのことはみんなで決め、さまざまな地域づくりに取り組んでいくことです」の表現中、「力を出し合っ」と「力を合わせて」は同じ意味ではないか、また、「地域を住みやすくするため」と「地域づくりに」とが似ているので、定義を短くして、誰もが言えるようにしてはどうか。	1	ご意見を踏まえ、次のとおり記述を修正しました(下線部を修正)。 「 <u>参画と協働</u> とは、 <u>県民と…知恵を出し合っ、…取り組んでいくこと</u> です」 「 <u>美しい兵庫</u> の実現をめざし、… <u>知恵</u> を出し合っ、みんなのことはみんなで決めて、 <u>力を合わせ、…</u> 」
	本編の1ページに、「参画と協働とは…」という定義と、「参画とは…、協働とは…」という定義が並んでいる。前者は、この支援指針・推進計画でいうところの字義であり、後者は、そもそもの字義だろうと思うが、わかりにくい。少し表現を工夫して、誰が読んでもすぐに分かるような工夫が必要だと思う。	1	ご意見を踏まえ、次のとおり記述を追加しました(下線部を追加)。 「 <u>[参画、協働とは…]</u> <u>参画とは…計画の立案に加わること(広辞苑)</u> <u>協働とは…</u> <u>協働という言葉は、役所と住民が、共に考え、共に汗を流し、共にリスクを負うという共通事業(活動)の担い手になる、つまりお互いが「主催者」であるという関係を表している。あるいはそう考えたいという願望を含意している(大森 彌『現代日本の地方自治』(1995年)から引用)。</u> <u>協働(パートナーシップ)とは、非営利、公益活動の分野における共通の課題領域に関して、行政とNPOが目的意識を共有し、相互に自立しつつ、相手方の特性を認識・尊重して、対等関係で、協力・協調して活動していくことと定義できる(松下啓一『自治体とNPO政策』(1998年)から引用)。</u> 」
	本編の1ページの後段の二重線で囲んだ部分に、2つの場面への参画と協働が「一体的に展開することが必要」との表現があり、理想としては分かるが、両者が一体的に展開するという社会はあまり自由がない社会のような感じを受けてしまう。「調和しながら」ぐらいの表現が妥当ではないか。	1	ご意見を踏まえ、次のとおり記述を修正しました(下線部を修正)。 「 <u>地域社会の共同利益の実現と…これらは相互に連携しながら展開することが必要です</u> 」

		本編の1ページの後段の二重線で囲んだ部分に、「美しい兵庫づくり」という言葉が出ている。何となくのイメージはあるのだが、説明を加えてほしい。	1	ご意見を踏まえ、次のとおり説明を追加しました(下線部を追加)。 「『21世紀兵庫長期ビジョン』では、 <u>兵庫が目指す将来像として、多様な地域に多彩な文化と豊かな暮らしを築き、兵庫に関わるすべての人々にこころ豊かに生きる感動を与える『美しい兵庫』を築くこととしている。</u> 」
	(3)議会と知事の関係は (4件) <本編2ページ> <概要4ページ>	参画と協働の展開には、地方自治の両輪である行政と議会が、緊張感を持った上で連携し、互いの役割を果たすことが不可欠である。	4	本文の趣旨に一致しています。(2ページの「(3)議会と知事の関係は」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)
1 目的・役割等	(1)目的と役割 (2件) <本編4ページ> <概要1ページ>	どれが支援指針で、どれが推進計画か分かりにくい。支援指針と推進計画と分けて使わずに、それを統合するような名称をつけられればどうか。	1	ご意見を踏まえ下記のとおり記述を追加しました(下線部を追加)。 「 <u>地域づくり活動支援指針と「県行政参画・協働推進計画」は、本県がめざす参画と協働の展開方向を示すものであり、相互に密接に関連することから、基本的な考え方などを共有しながら一体のものとして策定します。</u> 」
	(4)構成 (2件) <本編5ページ> <概要2ページ>	指針・計画の目的・役割が、最後に記載されていることに違和感がある。最初に記載しておく方がいいのではないか。	1	ご意見を踏まえ、次のとおり修正しました。 構成を変更し、「はじめに」の後に「1目的・役割等」を配置しました。
3 兵庫が描く参画と協働	(1)参画と協働による兵庫づくり (3件) <本編12ページ> <概要5ページ>	13ページの「参画と協働の5つの要素」のうち、「ともに知る」の説明が、「お互いの状況や、考えていることなどについて」とあるが、これでは、個人の事情、状況に限定されているような感じがする。「ともに知る」ことが最も必要なのは、地域の課題についての情報なのではないだろうか。	1	ご意見を踏まえ、次のとおり記述を修正しました(下線部を修正)。 「みんなで、 <u>地域の状況や課題など</u> について、知らせあい、分かり合う」
		13ページの「参画と協働の5つの要素」のうち、「ともに知る」ことが最も重要であり、これが全ての基本であることをもっと強調すべきである。	1	本文の趣旨に一致しています。(5つの要素のうち、「ともに知る」が全ての基本であるため、先頭に挙げています。また、18ページには重点取り組み項目として「多様な情報を提供します」を、22ページには「県民と情報を共有する」を記述し、情報提供や情報共有の重要性を強調しています。)

		兵庫が描く参画と協働のキャッチフレーズである「みんなが主役で 多彩な協働」は、大変いいと思う。21世紀の地域づくりは、まさにこのとおりである。	1	このキャッチフレーズに基づき、県民の参画と協働のより一層の推進を図っていきます。
	(2)各主体の役割と連携 (6件) <本編14ページ> <概要6ページ>	参画と協働の実現のためには、県民一人ひとりが、地域のことに積極的に関わっていくことが重要である。犯罪防止のためにも、地域が力を合わせる必要がある。	1	本文の趣旨に一致しています。 (県民の自発的で自律的な意思に基づく地域づくり活動の中には、地域の防災・防犯も含まれていません。)
		中間支援組織とは何か、もう一つ分かりにくい。	1	ご意見を踏まえ、15ページのコラム「中間支援組織への期待」に、下記のとおり中間支援組織についての記述を充実しました(下線部を追加)。 <u>「…事業の企画・実施、ネットワーク化、組織基盤強化への支援などの役割を担う…中間支援組織…」</u> 。一般的に、中間支援組織には、自治会、婦人会などの地域団体や職能団体など各種団体の全県・広域組織をはじめ、ネットワーク形成や調整(コーディネート)活動に重点を置いたNPOなど多様な組織があります。
	参画と協働について、県と市町の連携が重要である。住民は県民であるとともに市民や町民でもある。県と市町の役割の違いを踏まえつつ、県と市町が連携した総合支援体制を整えていくべきである。	3	本文の趣旨に一致しています。 (15ページのコラム「地域づくり活動での市町と県の関係は…」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)	
	学校を活かした参画と協働においては、未婚者やDINKS(子どもを持たない夫婦世帯)も活動に巻き込まなければならない。単なる学校支援活動に終わらせないためにも、県、市町の連絡調整会議(仮称)を組織すべきである。	1	具体的に県と市がどのように連携・協力していくかについては、本指針・計画に基づき、今後個々の参画と協働の場面において検討していくべき課題であると考えています。	
4 参画と協働の展開方向	(1)展開にあたっての3つの視点 (2件) <本編17ページ> <概要7ページ>	3つの視点の中で「過程の共有」が最も重要である。住民が1人でも、1回でも多く行政と地域に関わる機会をつくるのが肝要である。	2	本文の趣旨に一致しています。 (17ページ「過程の共有」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)
	(2)地域づくり活動の支援の方向 新たな活動を生み、育む (12件) <本編18ページ> <概要8ページ>	18ページの「新たな活動を生み、育む」のうち、「多様な情報を提供します」の項目の中で、「地域に存在するさまざまな資源」というのがよくわからない。ここで言う資源とは、地域で活動している人や活動できる場所などのことを言っているのだろうか。もう少し説明が必要ではないか。	1	ご意見を踏まえ、次の通り記述を修正しました(下線部を修正)。 <u>「…地域の歴史、人材、施設などさまざまな資源に関する情報を多様な媒体を活用して提供します」</u>

<p>地域社会の構成員としての自覚の醸成のためには県民としてのアイデンティティが形成されなければならないと思う。そのためには、地域の歴史を学ぶことが重要である。そのために、「兵庫県史」「兵庫県百年史」や、県政資料館などの施設を活用すべきである。</p> <p>特に施設のほうは、県政の歴史や地域の歴史を紹介するセミナーや、収蔵資料を使った企画巡回展示の開催、地域学習や日本史の授業、卒業論文や修士論文への素材提供、新聞雑誌、テレビ等のメディアへの情報提供といったことが可能だと思う。</p>	2
<p>地域づくり活動への県の支援施策や活動のポイント、先進事例などの情報を、県が幅広く地域住民や市町に提供していくべきである。それらをまとめた手引書のようなものを作ってほしい。</p>	<p>2 本文の趣旨に一致しています。(18ページの重点取り組み項目「多様な情報を提供します」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)</p> <p>なお、県では、地域づくり活動の成功事例やノウハウ等を編集した白書を作成する予定です。</p>
<p>県民の自律的な活動を支援していくためには「情報」が鍵になると思う。現行の県民運動情報誌ネットワークを衣替えし、自治会活動向けの情報誌を発行してはどうか。その編集・発行にはNPOとも協働していけばよいと思う。</p>	<p>1 参画と協働を推進するためには、情報の提供が重要だと考えています。ご指摘の点については、今後の課題として検討していきます。</p>
<p>18ページの「新たな活動を生み、育てる」のうち、「多様な世代の参画・協働を促します」の項目の中で、「若い世代の勤労者や大学(院)生」とあるが、大学(院)生だけではなく、高校生も結構ボランティア活動をしているのではないだろうか。「学生」ぐらいの表現で、もっと幅広い層を含めたほうがよいように思う。</p>	<p>1 ご意見を踏まえ、次のとおり記述を修正しました(下線部を修正)。「若い世代の勤労者や<u>学生</u>が、…取り組みます」</p>
<p>参画と協働において、教職員と児童・保護者との双方向の流れが形成されつつある学校教育が果たす役割は重要である。</p>	<p>2 本文の趣旨に一致しています。(18ページの重点取り組み項目「多様な世代の参画と協働を促します」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)</p>
<p>参画と協働を実践していない人を、駄目な県民とするのではなく、条件さえ整えば実践する可能性のある人たちとして捉えるべきである。特に今まで学んだことや自分の経験を地域に活かしたいがどうすれば良いか分からない高齢者や、これまで参画と協働について学ぶ機会がなかった若者を巻き込んでいくことが重要である。</p>	3

<p>活動を高め、支える (15件) &lt;本編19ページ&gt; &lt;概要9ページ&gt;</p>	<p>NPOなどの新しい活動への支援もいいが、自治会、婦人会等の活動の重要性を再認識していただき、活性化への支援をお願いしたい。</p>	2	<p>本文の趣旨に一致しています。 (19ページ「活動を高め、支える」で記述しているとおり、団体の特性にあった適切な支援に努めていきます。)</p>
	<p>19ページ「活動を高め、支える」の「地域に根ざした活動を支える人材が-----」だけが長すぎる。タイトルとしては頭に入りにくい。せめて、「地域に根ざした活動を支える人材づくりを支援する」程度の方がいいのではないか。</p>	1	<p>本文の趣旨に一致しています。 (各章や項目のタイトルについては、それぞれの内容を的確に、かつ分かりやすく表現するように努めています。)</p>
	<p>地域において参画と協働を進めるためには、地域を変えるキーパーソンが必ず必要である。そういった人材を育成することももちろん必要だが、地域がその人材を支えることも必要である。</p>	1	<p>本文の趣旨に一致しています。 (19ページの重点取り組み項目「地域に根ざした活動を支える人材づくりを支援します」において、人材の育成・支援の考え方について記述しています。)</p>
	<p>地域づくり活動の展開にとって活動の場所の確保や施設の有効利用が重要である。商店街の空き店舗、高校、その他の県立施設などに、地域の住民が気軽に集まって交流できればよいと思う。また、それらの施設の管理・運営は地域づくり活動団体に委託してはどうか。</p>	4	<p>本文の趣旨に一致しています。 (19ページの重点取り組み項目「県民の主体的な活動拠点を充実します」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)</p>
	<p>学校施設を活動の拠点にするところがあるが、最近、学校を狙った犯罪が頻発しており、学校は閉じる方向に動いている。このあたりをどう考えるのか。</p>	1	<p>地域づくり活動の拠点として、学校は重要な施設だと考えていますが、具体的なしくみについては、今後、県民や市町と検討を深めていきたいと考えています。</p>
	<p>地域活性化のため、廃校となった学校の有効利用をすべきである。たとえば県立武庫之荘高等学校であれば待機児童の解消のための保育所に、県立豊岡南高等学校を豊岡かばん産業の復興に、それぞれ利用するなどが考えられる。</p>	3	<p>行政施設の有効利用については19ページの重点取り組み項目「県民の主体的な活動拠点を充実します」に記述しています。個々の施設を具体的にどのように利用すべきかについては、地域住民の参画と協働のもとで検討していくべき課題であるとと考えています。</p>
	<p>地域の為にボランティアで町づくりに貢献している人たちにもっと幅広く色んな助成金制度があることをPRできるようなシステム作りを行った方が良い。</p>	1	<p>ご意見を踏まえ、次のとおり記述を修正しました(下線部を修正)。 「補助金や貸付金については、<u>と</u>ニューの一覧や、基準、申請手続きなどを県民の立場に立ってわかりやすく示すことを基本に、ITの活用などにより…利便性を向上します」</p>
	<p>19ページの「活動を高め、支える」のうち、「活動に必要な財政基盤の充実を支援します」の項目の中で、補助金や貸付金をもっとわかりやすくなることには賛成である。ただ、「各種の行政サービス」が、補助金や貸付金のことを言っているのか、少しわかりにくい。また、補助金や貸付金について、いろいろな制度をもっとわかりやすく一覧にするなどの情報の提供を行ってほしい。</p>	1	<p>「補助金や貸付金については、とニューの一覧や、基準、申請手続きなどを県民の立場に立ってわかりやすく示すことを基本に、ITの活用などにより…利便性を向上します」</p>

	<p>寄付文化、優遇税制について触れてあるが、これは日本の将来を考える上で、とても重要なものであるので、是非、取り組んでいただきたい。</p>	<p>1 本文の趣旨に一致しています。 (19ページの重点取り組み項目「活動に必要な財政的基盤の充実を支援します」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)</p>
<p>活動をつなぎ、 広げる (18件) &lt;本編20ページ&gt; &lt;概要10ページ&gt;</p>	<p>自治会等の地域団体が、NPO等と協働しながら地域づくりの核になるよう、総合調整していくことは、地方分権、市町合併が進む中でも急務となっている。県の様々な部局が地域団体に関連する施策を行っているが、総合調整を行う組織体制を整備してはどうか。</p>	<p>1 本指針・計画に基づく各種取り組みの進捗状況を検証しながら、適切な組織体制を検討していきます。</p>
	<p>地域や県では様々なイベントがあるが、それらを実施するときに、県内各地で様々な分野で活躍する地域の人材を生かすため、それをデータベース化することが必要だ。</p>	<p>1 20ページの重点取り組み項目「みんなの情報をつなぎます」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。具体的には、登録制度や人材データベースの活用を図っていきます。</p>
	<p>毎年、各県民局単位で、県民局職員と推進員の連携のもと、スポーツ、カルチャー等のイベントを行い、たとえば神戸と但馬など、異質な生活圏、文化圏の住民同士が交流し、相互理解し、協調し、協働へと向かうよう支援すべきである。</p>	<p>1 20ページの重点取り組み項目「多様な主体をつなぎ、地域固有の取り組みを支援します」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。具体的にどのような事業を実施するかについては、本指針・計画に基づき検討していきます。</p>
	<p>地域づくり活動を展開するためには、そこに住んでいる人だけでなく、出身者や何らかの縁のある人などにも参画・協働してもらう仕組みが必要である。</p>	<p>2 ご意見を踏まえ、次のとおり記述を追加しました(下線部を追加)。 <u>「地域づくり活動に関する情報の発信、交流の機会の充実等を通じて、兵庫県や地域に縁や関心がある多様な人・団体のネットワークづくりを支援します。」</u></p>
	<p>地域で活動する団体は様々であるが、地域の再生や活性化のためにはそれら組織の連帯が不可欠である。そのためには、自治会や婦人会等のこれまでの地域団体と、NPO等のテーマ型グループが連携できるようなしくみづくりを考えるべきである。</p>	<p>7 本文の趣旨に一致しています。 (20ページの重点取り組み項目「多様な主体をつなぎ、地域固有の取り組みを支援しています」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)</p>
	<p>21ページの「各地域における総合的な支援拠点を充実します」の項目で、「生活創造」とあるが、この支援指針・推進計画で言う「地域づくり活動」とどういう関係にあるのか、また、その次の文章は、何が主語になっているのか。「生活創造センター」が主語だとすれば、「生活創造」と「地域づくり活動」とをもう少しわかりやすく解説すべきだと思う。</p>	<p>1 ご意見を踏まえ、次のとおり記述を修正しました(下線部を修正)。 <u>「地域づくり活動を支援するため、…による広域的な推進拠点として、生活創造センター構想など、各地域(県民局単位)における総合的な生活創造支援拠点機能の充実を図ります」</u></p>

	<p>21ページに「各地域での総合的な支援拠点機能を充実します」と掲載されているが、「NPOとの協働により、県民の運営参加による手法も含めて、支援拠点機能の充実を図ります」というような掲載をしてほしい。</p>	<p>1 ご意見を踏まえ、次のとおり記述を追加しました(下線部を追加)。  <u>「総合的な生活創造支援拠点機能の充実にあたっては、地域団体、ボランティアグループ、団体、NPO等との協働による企画・運営手法なども含めて、県民(生活者)の立場に立って取り組みます」</u></p>
	<p>参画と協働にとって重要なことは「評価」である。NPOの評価システムの検討も進んでおり、これらをうまく活用して行政が支援を行うなどのしくみが必要である。</p>	<p>1 本文の趣旨に一致しています。(21ページの重点取り組み項目「県民が評価するしくみづくりに取り組みます」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)</p>
	<p>県民が団体の地域づくり活動を評価するしくみづくりのために、行政も巻き込んだ「参画・協働推進のための行政・県民活動評価機構」のようなものをつくれれば取り組みが具体的に進んでいくのではないか。</p>	<p>1 具体的にどのようなしくみのもとで団体の活動を評価していくかについては、ご意見を参考にしながら検討していきます。</p>
	<p>NPOの中には、実態のないものや、反社会的な活動を行っているものもあると聞く。資料の中には、NPOへの支援が多く記載されているようだが、本当に支援するに値する団体かどうかの審査はどうしているのか。</p>	<p>1 NPO法人については、認証の際の審査のみならず、事業報告書の審査、情報公開による市民監視など、適正な運用を図っているところです。今後は、審査基準等を策定し、NPO法人全体の信頼性の向上に努めていきたいと考えています。</p>
	<p>住民が自分たちの地域社会を、自分たちの力で大切にすること、本当に大切なことである。昔は、自治会活動や、祭りなどで地域の一体性もあったが、昨今、そういうことを避けようとする風潮がある。「参画と協働」というと難しく聞こえるが、そういう活動を取り戻すことだと思う。場合によっては、何らかの強制力が働くような仕組みが必要ではないか。</p>	<p>1 地域社会の共同利益の実現への参画と協働は、あくまで県民の自律的で自発的な取り組みのもとで推進していくものと考えています。</p>
<p>(3) 参画と協働による県行政推進の方向  県民と情報を共有する  (7件)  &lt;本編22ページ&gt;  &lt;概要11ページ&gt;</p>	<p>参画と協働の基本は情報公開である。県はもっと積極的に情報の公開・提供に取り組まなければならない。情報を提供する際にも、ただ公開するだけでなく、県民に興味を持ってもらえるようなPRなど、広報上の工夫も必要である。</p>	<p>4 本文の趣旨に一致しています。(22ページの重点取り組み項目「県民が主体的に選択できる情報を提供します」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)</p>

	<p>行政は民間企業とは違い、コストの論理だけではいけない。コストはかかっても、地域の健全な発展のためには実施しなければならない取り組みもある。そのあたりをうまく評価する仕組みも必要である。</p>	<p>1 ご意見を踏まえ、次のとおり22ページの記述を修正しました(下線部を修正)。 「<u>地域特性を反映した多様な視点から各種施策の…に取り組みます</u>」</p>
	<p>行政評価が重要である。施策の企画・立案、執行等について県民に分かりやすく説明した上でその評価を仰がなければならない。また、各施策にどれだけ県民が参画できたかなど、手続面での参画と協働についての評価も必要である。</p>	<p>2 本文の趣旨に一致しています。(22ページの重点取り組み項目「県行政の評価・検証への県民参画を進めます」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)</p>
<p>県民と知恵を出し合う (7件) &lt;本編23ページ&gt; &lt;概要12ページ&gt;</p>	<p>パブリック・コメントについて、案件等をHPで公表されているが、我々県民は毎日、県のHPをチェックしている訳ではないので、例えば、予定一覧を掲載するとか広報の方法を工夫していただきたい。</p>	<p>1 ご意見を踏まえ、次のとおり23ページに記述を追加しました(下線部を追加)。 「<u>これまで以上に分かりやすい資料作成に努めるとともに、予定案件一覧の発表など広報の一層の充実を図り、県民が意見・提案をしやすいようパブリック・コメント手続きの的確な運用を進めます。</u>」</p>
	<p>審議会などの公募を進めるとの記載があるが、まず、県にはどのような審議会があり、委員の公募をいつ、どのような形で行っているのかが分からないので、それが分かるような工夫ができないか。県政モニターやアドバイザーについて公募する場合にも、同様の工夫が必要ではないか。</p>	<p>3 ご意見を踏まえ、次のとおり23ページに記述を追加しました(下線部を追加)。 「<u>これらの運用にあたっては、より多くの県民の参画を得られるよう、審議会等にかかる情報を一覧で掲示するなど広報を充実します</u>」</p>
	<p>県が公募する各種の委員は必ず本人による応募とすべきであり、住所、氏名、電話番号等を明らかにすべきである。</p>	<p>1 個人情報保護の観点から、どの程度まで応募者の情報を公開することが適切か、今後検討していきます。</p>
	<p>各種委員会を神戸ばかりで開催するのではなく、各県民局等で持ち回りで開催すべきである。また、傍聴も自由にし、傍聴者の質問や発言のための時間も取った方が良い。</p>	<p>1 ご意見については、それぞれの審議会が担当する審議事項の性質に応じて検討していくべき課題であると考えています。</p>
	<p>一般県民が普通に生活していると、県庁とはあまり縁がないように思う。いろいろな委員とかの公募を行っているのは知っているが、日常の仕事もあり、応募にまでは至らないというのが大半の県民の感想だろう。</p>	<p>1 時間のない人にも県行政に参画と協働していただけるよう、委員の公募に限らず、さまざまなしくみづくりや機会の創出に努めていきます。</p>

	<p>県民と力を合わせる (6件) &lt;本編24ページ&gt; &lt;概要13ページ&gt;</p>	<p>NPO活動に取り組んでいるが、行政の、NPOについての理解が少ない(信用されていない)と感じることが多い。NPOにもいろいろあるが、NPOの社会的な意義をもっとPRするとともに、行政と協働して地域づくり活動を行う機会を増やしていただきたい。</p>	<p>1 本文の趣旨に一致しています。 (24ページ「県民と力を合わせる」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)</p>
		<p>行政はもっとコスト意識、効率意識を高める必要がある。また、アウトソーシングを進め、スリム化を図ることも必要である。参画と協働にはそういった行革としての側面もあると思う。</p>	<p>2 本文の趣旨に一致しています。 (24ページの重点取り組み項目「多様な委託のしくみづくりを進めます」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)</p>
		<p>推進員らの連携を図ることの重要性は理解できる。具体的にどのような取り組みを考えているのか。</p>	<p>1 25ページにあるように、県民の身近なアドバイザーとして、また種々の活動団体のつなぎ役としての地域づくり活動サポーター(応援隊)(仮称)の設置をはじめ、適切な手法を検討していきます。</p>
		<p>全ての学校に、地域と学校を結ぶための非常勤職員(仮称・参画推進員)を置き、地域住民と担当学校の地域づくり活動のための調整、支援に充てるべきである。高等学校のクリエイティブ21、地域オープン講座、トライやるウィークなども、この枠組みの中で扱うのが良い。</p>	<p>1</p>
		<p>地域づくり活動パワーアップ事業など、県の支援をうまく活用していきたいと考えているので、この施策は是非続けていただきたい。</p>	<p>1 本年度のパワーアップ事業の取り組みを検討し、地域団体活動のさらなる活性化を通じて活動の裾野が広がるよう、広域的な活動への助成を図るなど、事業フレームの見直しを行った上で引き続き実施していきます。</p>
5	<p>(1)地域全体としての参画と協働の推進 (1件) &lt;本編26ページ&gt; &lt;概要14ページ&gt;</p>	<p>26ページ「(1)地域全体としての参画と協働の推進」について、書いてある趣旨には賛同するが、県として具体的に何をするのが分からない。県がどこかの地域で現地調査を行うのならば、「必要です。」ではなく、「実施します。」としてはどうか。また、記述に具体性を持たせるため、地域名を例示してはどうか。</p>	<p>1 ご意見を踏まえ、次のとおり記述を修正しました(下線部を修正)。 「そこで、県民運動や…地域全体を総合的にとらえ、地域住民と力を合わせて現地調査や実践活動の展開を行い、参画と協働の推進方向に関する知見の蓄積に取り組みます。そうする…」</p>
	<p>(2)推進体制の整備 (16件) &lt;本編27ページ&gt; &lt;概要14ページ&gt;</p>	<p>参画と協働のためには、県職員の意識改革が重要である。職員には、参画と協働の先導役として、広い知識と実践力を持っていただきたい。</p>	<p>8 ご意見を踏まえ、次のとおり記述を修正しました(下線部を修正)。 「<u>地域づくり活動に取り組むNPO、団体、企業での現場研修(職員によるトライやる・ウィーク)や人材交流を実施するなど、県職員が参画…研修機会を一層充実します</u>」 「さらに、<u>地域づくり活動に熱心に取り組む職員が中心となり…県職員自らがそれぞれに居住地域などで、さまざまな地域づくり活動に積極的に関わることを通じて、…</u>」</p>

		<p>参画と協働のためにはNPO活動が大変重要だが、県の担当部署や市町においてはその意義が十分に理解されていない。自治会やNPOと行政がもっとお互いのことを知り、話し合える関係になることが参画と協働を進める上で重要である。</p>	2	<p>本文の趣旨に一致しています。(27ページ「職員意識を醸成します」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。今後、職員意識の一層の醸成に努め、県民の視点に立った参画と協働による県行政の推進に努めていきます。)</p>
		<p>全体的に県職員、特に県民局の職員の対応が良くなった。参画と協働の県政の成果か。</p>	1	<p>今後とも県民の視点に立った参画と協働による県行政の推進に努めていきます。</p>
		<p>県民が地域づくり活動や県行政への参画に取り組みたいときに、気軽に親切に相談に乗ってくれるしくみがあれば良いと思う。</p>	2	<p>本文の趣旨に一致しています。(27ページ「参画と協働の推進にふさわしい執行体制を整備します」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。今後、県行政の身近な窓口となるよう県民局機能の拡充に努めます。)</p>
		<p>行政の意思決定のしくみをもっとシンプルにする必要がある。特に、現地解決型が売り物の県民局における権限を強化することが必要である。</p>	1	
		<p>地域づくり活動を県民局及び市がもっと積極的に行い地域住民の地域づくりに参加する意識の向上に対する起爆剤の役割をしてほしい。</p>	1	
		<p>参画と協働の核を学校が担うために、その独立性を保証しなければならない。校長をトップとした予算の自主決定権、専決事項の拡大等を進めるべきである。</p>	1	<p>参画と協働の推進に向けて、県民局等の現地解決型機能の充実に取り組みます。具体的なしくみについては今後ご意見を参考にしながら検討していきます。</p>
参考	<p>参画と協働のチャンネル例 (1件) &lt;本編28ページ&gt;</p>	<p>28ページから、参画と協働のチャンネル例が書かれているが、これは、県行政への参画と協働のチャンネルということなのだろうか。県民同士の取り組みとしての「地域通貨」や「コミュニティ・ビジネス」などの新しい手法も、紹介してはどうだろうか。</p>	1	<p>ご意見を踏まえ、次のとおり記述を追加しました(下線部を追加)。 「<u>地域通貨</u>」<u>特定の地域のみで使える通貨を活用して、福祉、環境、文化、教育などに関連するコミュニティ活動を促進する。</u>」 「<u>コミュニティ・ビジネス</u>」<u>県民がビジネスとして地域の課題解決に取り組み、コミュニティの再生と雇用や地域経済の活性化を達成する。</u>」</p>
	<p>県行政における参画と協働のチャンネルの組み合わせ例 (2件) &lt;本編31ページ&gt;</p>	<p>31ページ以下に、「県行政における参画と協働のチャンネルの組み合わせ例」が記載されているが、こういうものがあれば、県の取り組みが大変分かりやすくなる。是非とも取り組んでいただきたい。</p>	2	<p>本文の趣旨に一致しています。(28ページ「参画と協働のチャンネルと組み合わせ」において、ご意見の趣旨に沿った記述をしています。)</p>

その他、地域づくり活動や県行政全般について (5件)	地域づくり活動として、「いぼがわせせらぎだより」というニュースレターを1000部余り、各戸に配布し、少しでも川や山のことに関心を持ってもらい、河川を昔のような清流に戻したいと思って努力している。	1	今後とも、県民の皆さんの意見や取り組みを参考にしながら参画と協働の推進に取り組んでいきます。
	参画と協働については、先進的な市町もあるが、全体的に県の方が進んでいると感じている。	1	
	現在、東播磨県民局管内の3市2町で、ため池を主役とした新たな地域づくりとして「いなみ野ため池ミュージアム」を推進している。この中での個々の取り組みと地域住民の反響と活動が、まさに参画と協働の実態を垣間見ることができる状況にある。取り組みの柱の一つに、農業用施設であるため池の管理者と周辺の自治会、さらには自然観察グループ、地域の大学、高校、小中学校日本野鳥の会、兵庫県地理学協会……の参画と協働の元にため池保全協議会の創設が順次進められている。管内600あるため池のうち当面約50箇所での設立と、これらの世話と情報提供等をしていくために行政と地域住民の間に中間援団体の創設を目ざしているところである。	1	
	自覚し、自立した住民が県民局員と協働して「雄県兵庫」の再興を図るためにも、「ひょうご県民の日」を制定すべきである。	1	
	今、農村部は過疎化の中で崩壊の危機にある。都市部へ移住した人たちの間でも、「ふるさと」としての農村部への回帰は容易に行われているが、地域の維持・管理はそこに居住している人たちの手に委ねられており、地域の高齢化に伴いその作業はますます困難になってきている。	1	